

金沢能楽美術館特別展「観世宗家の至宝」関連イベントー

二十六世観世宗家観世清和師と宝生流第二十代宗家宝生和英師、観世文庫理事の松岡心平氏をお招きし、吉野館長のコーディネートにより、その歴史と至宝について熱く語っていただきます。

スペシャル鼎談

『観阿弥・世阿弥から加賀宝生へ』

平成29年11月21日(火)

開演 13時30分 (開場 13時)

KAZUFUSA HOSHO



宝生和英

宝生流第二十代宗家

父 第十九世宗家宝生英照に師事。2008年に宝生流第20代宗家を継承。伝統的な公演に重きを置く一方、異流競演や復曲なども行う。イタリア、香港を中心に文化交流事業。日伊国交樹立150周年事業に多数参加。2017年に日本パチカン国交樹立75周年公演を制作、出演。

KIYOKAZU KANZE

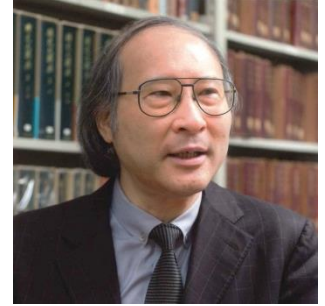


観世清和

二十六世観世宗家

父は二十五世宗家 観世左近元正。室町時代の観阿弥、世阿弥の子孫、観世流の26世宗家として、現代の能楽界を牽引。国内公演はもとより、フランス、インド、タイなどでの海外公演、復曲や新作能にも意欲的に取り組み、2012年にキリシタン能「聖パウロの回心」を初演。

SHINPEI MATSUOKA



松岡心平

東京大学教授

東京大学大学院総合文化研究科教授。観世文庫の理事として能の現場とかがわりながら、日本文学や歴史学を総合する形で中世研究を行っている。著書に、『宴の身体—バサラから世阿弥へ』、『能—中世からの響き』などがある。

司会 吉野晴夫 金沢能楽美術館館長

会場 金沢能楽美術館 3階研修室
 参加料 無料 ※但し 要観覧料
 (観覧料 一般300円・65歳以上200円)
 申込先 金沢能楽美術館 076-220-2790

